13
1961
15

百人一首戯(ヲドケ)講釋

芙三郎誌

寛政六年

15
遠
1961
82

1961
15

夫百人一首ハ定家卿小倉山ゟ書あつめ給ひ
百文貳朱ハ生姜糖小倉野ゟ買喰しよるゝ
夫へ歌書是ハ菓子ゟ食つてこうへらんぬが
草冊子ゟ大意ゟ意ゟ乾屋の頼をぬ人流し青の
作もいやく本ゟ作もいやく蕎麦切素麺喰ひ
さいゝと下卑さ所ゟ卑さぞとうめのさ孔明ゟ廬ゟ
三度通ひ如く是ゟ義理ゟ
名代ゟ代ゟ客ゟ如くお氣ゟ毒ゟ
紺屋のあこりくいくこしせんかくゟ如ようち向ひ
野郎ゟ人九ゟるゟうまちのゟうちゟちゟつゟ笑とゟう
ゟりくゟ出次ゟゟちやらちやべちやうちやくゟとゟいふ

甲寅春　　芝全交題

百人
孝
三

赤
白
赤
白

人丸のゆもと
三じゆうのゆん
うんてんかん
ゆうげんかうの
弁ぎとうろう
歩行

春
坂
坂
坂

谷
川

十一

芝全交戯作
山東京傳校合

妙法蓮華経は曾く繹史小說好うるゞ去年の秋黄

表紙の黄なる泉よ抄むさく上品中本戯

三の巻葉の蓮糸の絨物よ長物語の長さ

珠を雖然生涯著述多きが中大悲の千六

縁記の妙作あるべ自讃佛乘よもゐる

向ら線香よ泪のみだらうちくぜんらう

人纏く是を抑む 予 亦金六人をうしの

紙の書状知る者なく是と愁々ちわ滿

遺稿の後よ一首み夷歌と寄しん

琴の道ふ松をもまつ臣と

なく佛事の餞をはなちや

山東京傳